

平成30年度 NPO活動資金助成団体・助成事業一覧

NO	事業区分	団体名	事業名	助成額(円)
1	スタートアップ	荻窪家族プロジェクト「百人カサロン」	子どもの居場所をつくる …「百人力てらこや」	176,000
2		ストレス対処法研究所	「生き方バージョンアップ事業 ～自己の可能性」	166,600
3		ワーカーズコープ 杉並地域福祉事業所 浜ココ	浜ココ地域なんでも解決プロジェクト	123,316
4	ステップアップ	サービスフロンティア すぎなみ昔話紙芝居一座「すかい」	子ども目線で作る杉並昔話(33話の中から) 紙芝居制作講座	238,713
5		竹箒の会 (アートカード&コミュニティ研究会)	アートカードで健康長寿	392,520
6		てんぐるま	すぎなみ「心のバリアフリー」プロジェクト	500,000
7		むさしの児童文化協会	おはなし語りと和の文化で地域をつなごう2018	300,000
合計	7団体			1,897,149

助成金対象事業報告書(平成30年度)

団体名	荻窪家族プロジェクト「百人カサロン」
事業名	子どもの居場所をつくる……「百人力てらこや」
事業(該当区分に○)	① スタートアップ事業 2. ステップアップ事業
事業概要	本事業は子どもたちが地域の中で安心して勉強したり、遊んだりする環境づくりのため、'子どもの居場所'を「百人力てらこや」として開設する。団体概要書で述べた幼児層、シニア層が参加する既存事業に加え、新たに小学生の集いの場を提供し、且つ子どもの見守り隊としても地域活動の一助となる。
事業目的	目的 「百人力てらこや」の開設を目的とする。学童クラブや児童館を利用できない、利用しない子どもたちの受け皿が必要で 勉強や遊びを通して集団性・社会性を身につけることが大切であり、小学1年から6年生の子どもたちに'居場所'を提供する。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	① 実施対象者・対象者人数(延べ人数) 就学児童(小学1年から6年生)を対象に実施。 年間延べ270人(10人×3回/月×9ヶ月)を見込む。	①実施対象者は計画通り小学1年から6年生とした。 年間延べ270人の見込みに対し夏休みに参加者が予定に達しなかったが、10月より登録者が26人と増加し、スペースの関係で、12月から4回に変更した。結果延べ人数は258人であった。
	① 実施内容 毎月3回、地域小学校の就学時程にあわせ15時半から17時半まで子どもたちに「算数」などを中心に希望に応じて教える。また休憩時間を利用して読書、囲碁、将棋、おもしろサイエンス、などの教養も希望により教える。	① 実施内容 毎月3回の予定であったが登録人数が増えたため部屋の定員が12名なので途中から4回にした。地域小学校の就学時程にあわせ15時半から17時半まで子どもたちに「算数」教えた。宿題については優先的にさせるようにした。また休憩時間を利用して読み聞かせ、紙芝居などの教養も取り入れた。
	① 実施場所・実施回数・スケジュール 実施場所: 荻窪家族レジデンス内 集会室、アトリエ 実施回数: 27回(毎月3回×9ヶ月) スケジュール: 平成30年6月から平成31年2月	① 実施場所・実施回数・スケジュール 実施場所: 荻窪家族レジデンス内 集会室、 実施回数: 28回(月2回×2ヶ月・3回×4ヶ月・4回×3ヶ月) スケジュール: 平成30年6月から平成31年2月 9ヶ月
	① 実施体制(必要とされる人員や設備等、実施方法や人員等の確保状況) 講師: 3名 設備: PC、プロジェクター、スクリーン、机、椅子は既設品を使用	① 実施体制(必要とされる人員や設備等、実施方法や人員等の確保状況) 講師: 1名 講師助手: 登録ボランティア4名で交代に応援 設備: PC、プロジェクター、スクリーンは使用しなかった。机、椅子は既設品を使用。特に問題集を大量に印刷したのでコピー用紙とインク代にコストを要し、また借用したコピー機に大きな負担をかけた。
	① 広報活動(団体活動や事業の周知・PR(集客)方法) チラシを作成し、小学校や町会回覧板、ポスティング。ホームページへの掲載。掲示板「でんごんくん」への掲示。フェイスブック活用。	① 広報活動(団体活動や事業の周知・PR(集客)方法) チラシを作成し、小学校や町会回覧板、ポスティング。ホームページへの掲載。掲示板「でんごんくん」への掲示。フェイスブック活用。一番の効果は口コミであった。

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

	事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。	
	<p>① ニーズの把握 現在社会問題になっている学校以外での‘子どもの居場所’について考察した。また保護者から要望の強い午後6時以降の開館時間について(広報すぎなみ記事)も状況に応じて対応する。 荻窪家族プロジェクト区域の公立学童クラブの利用状況 1、荻窪北学童クラブ利用者 90名(桃二小1~3年生が多い) 桃二小全児童数 520名・利用率17% 荻窪学童クラブ利用者 115名(西田小1~3年生が多い) 西田小全児童数 610名・利用率19% 2、児童館は学童クラブを併設しており、スペースが狭く、十分な環境が整っていないため利用する児童が定着しない。 3、利用しない・できない理由折角、学童クラブや児童館があっても集団に馴染めない児童や家庭の事情、費用負担(5700円/月)が大きいなど、また高学年は下校時間が3時半から4時以降なので保護者が戻るまでの2時間くらいは留守番している児童が多い。これらの児童に手を差し伸べる必要がある。 4、当団体施設地域内の桃二小、西田小両校の就学児童1130名を対象とし、少数ではあるが一部の児童の受け皿となりうる。</p>	<p>小学生低学年が多かったので午後6時以降の開館は往復の安全面を考慮し実施しなかった。目標とした「子どもの居場所」としての「百人力てらこや」はその機能を十分に発揮できた。保護者からの反応も「こういうソフトな場所が欲しかった」という言葉をいただいた。希望者はもっと多いが施設のスペースや講師確保の点で増やすことができなかった。潜在的ニーズは掘り起こせば多いが、施設やスタッフの確保ができないのが現状で空き家の利用など工夫をする必要があるのではないだろうか。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった</p>	
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。	
	<p>当団体は住宅地の真っ只中にあり小学生が多く、子ども向けイベントにも関心が高い地域である。且つ常に多様な人たちが当団体施設に集う明るい雰囲気があり、安全な環境で子どもたちの‘居場所’として適切である。</p>	<p>当団体施設は日頃より多くの方が出入りしている関係で、早速、地域の方4名がボランティアとして交代で講師補助役として参加してくれたことは心強く、大きな収穫であった。</p>
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>		
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。		
<p>「百人力てらこや」には各所から子どもたちが集い、子ども同士のあたらしいつながりが生まれ、子どもを支えるシニアとの交流と地域コミュニティの拡大や交流に効果がある。助成を受けることにより、この新事業を実施することは、現在定着している‘シニア向け’幼児向けイベント活動に加え、当団体の活動の幅を広げ、利用者たちのエリアと年代層の拡大に繋がることが期待される。</p>	<p>子どもたちは桃井第二小学校区、西田小学校区、のほか杉並第七小学校、学芸大附属小金井小学校から幅広く集まり、違う学校同士の子どもとの交流が出来た。「百人力てらこや」以外のイベント「そうめん流し」「子どもクリスマス会」「隣人まつり」にてらこや参加の保護者も集まり、サロンメンバーのシニアとの交流に発展した。</p>	
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>		
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。		
<p>「百人力てらこや」に対して、地域の方の関心と評価を得た。今後の活動いかにボランティアは増えるであろう。中には参加させたいが習い事や塾の日程の関係で参加できないとの話も戴いた。また母親が病気で出られない子どもがいることも分かった。</p>		
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった</p>		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが毎回楽しみにして喜んで通ってくること。 ・保護者から感謝されていること。 ・講師やボランティアが子どもに対して適切に対応したこと。 ・事故やトラブルがなく実施できたこと。 ・学力の向上がみえたことと協力して行動することを学んだこと。
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>この事業は「杉並区NPO支援基金の助成金」で運営されていることをチラシ配布や支援募金箱を設置して広報活動した。募金箱に大金ではないが小銭が入っていたことで認知されたと感じている。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

5 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての試みであったので、想定される事業予算と実績の乖離があったので、今後の予算編成の役にたった。 ・2時間連続(休憩時間あるが)で同じ科目を勉強させると集中力が切れることが分かった。別の教科を織り交ぜる方法を考えていきたい。 ・始めのうちは低学年を落ち着かせるためのコントロールに苦労した。子どもの組み合わせを変更したり席次を入れ替えたりすることが必要である。

6 活動状況について

★具体的な活動風景の写真などを貼付



7 収支決算

事業費	[D]	201,800	助成金	[E]	176,000
-----	-----	---------	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳	
収入	団体負担金	5,000				
	参加費・資料代等	27,000		25,800	参加費@100×延べ258名	
	その他の収入					
	計	[C]	32,000	[F]	25,800	自己資金等
	助成金	[B]	176,000	[E]	176,000	NPO活動資金助成金
	合計	[A]	208,000	[D]	201,800	

費目	予算額		決算額		決算額内訳	
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費		
①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)			78,000		講師代 @3,000×26回	
			3,000		講師補助 @1,000×3回	
小計	81,000		81,000			
②旅費・交通費						
小計						
③備品費・消耗品費			6,885		のぼり他	
			20,771		教材	
			25,344	1,512	コピー用紙、インク、	
				8,737	雑費(紙コップ・紙皿など)	
小計	53,000	20,000	53,000	10,249		
④通信運搬費						
小計						
⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)						
小計						
⑥使用料・賃借料						
小計						
⑦その他の経費			17,000	1,000	ボランティア実費弁償 @1000×18回	
			8,000	2,620	保険料	
			17,000	11,931	菓子	
小計	42,000	12,000	42,000	15,551		
合計			176,000	25,800		
	[B]	176,000	[C]	32,000	[E]	176,000
	[A]	208,000	[D]	201,800	[F]	25,800
					助成金額との差額	

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

助成金対象事業報告書(平成30年度)

団体名	NPOストレス対処法研究所
事業名	生き方バージョンアップ事業～自己の可能性
事業(該当区分に○)	①. スタートアップ事業 2. ステップアップ事業
事業概要	悩みやトラブルによるストレスを抱え、孤立しがちな人を対象に、自己表現を通してストレスを軽減する方法を見いだすグループ活動を実施する。その活動の場が若者や高齢者など多世代が交流できる「居場所」であり、他者とのつながりによって多様な価値観などに触れる機会になる。
事業目的	様々な要因で精神的にストレスを抱え、人とのつながりを持ってずに孤独感を感じている人が増えている。そうした人たちのストレスを軽減し、社会参加や職場復帰、人間関係の回復ができるよう、“療養の場・つながりの場”を提供する。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) 中学生～高齢者を対象とする約200人以上	高校生～50代後半の92人
	②実施内容 演劇の手法をとり入れた表現方法に 認知行動療法という「考え方のクセを修正していく方 法」の要素を取り入れる。	認知行動療法を知識として説明することを避け、即興劇(ロール プレイを含み)のなかで自然に認知の歪みに気づけるように構 成した。
	③実施回数・スケジュール・実施場所 20回・平日夜間や土日を含む。1回約90分。参加 費500円。阿佐谷地域区民センターなどの公共施設 およびNPOストレス対処法研究所内	実施日: 7/16, 7/31, 8/5, 8/26, 9/17, 10/10, 10/31, 11/14, 11/23, 11/25, 11/28, 12/16, 12/26, 1/13, 1 /23, 1/27, 2/3, 2/10, 2/24, 2/27の20回。阿佐谷地域 区民センター(第一集会室、第4・5集会室・レクリエーション室、 軽運動室)。1回約120分。
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状 況) NPOストレス対処法研究所のカウンセラーや 表現専門家、精神科医師を講師として活動。	NPOストレス対処法研究所スタッフ・精神科医師を講師とする。 予定していた民間講師が来れなくなってしまった。
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) リーフレット・DM・ホームページ	DMやリーフレットを杉並区のフェスタで配布。ロコミやリーフ レットを参加者などが知人に配ってくれた。ホームページで参加 した人がいた。

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

		事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。		
	悩みを抱えている人々が、自分自身を苦しめている固定観念から解放されていくことや、多世代交流の場とする	参加回数が多いほど「役割」「表現」から自己を見直すことができ、「自由」な感覚が促された(インタビューによる確認)。対象に中学生を含んでいたが、参加者はいなかった(たまたま申し込みの保護者が来れなくなると子どもも来れなくなってしまった)。最初の第一歩(参加)のきっかけを工夫する必要がある。引きこもった子どもに参加させようとする家族も参加していたが、子どもに強制させるのではなく、参加した家族自身が楽しむことが重要であることに気づいてもらうチャンスになった。	
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
	<input type="checkbox"/> ①あつた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねあつた <input type="checkbox"/> ③あまりなかつた <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかつた		
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。		
	当団体のスタッフは、教職や心理カウンセリングの専門家が主体であるため、精神疾患で悩んでいる人などが社会復帰していくノウハウを、地域の医療機関や教育機関に評価されてきた。この事業では、精神疾患に限らず、より楽しく生きがいを感じる場として多様な対象者に提供する。	参加者が口コミで宣伝してくれたおかげで、広がりはみえたが、地域特性をどうかすか課題である。	
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input checked="" type="checkbox"/> ③あまりできなかつた <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかつた			
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。			
グループカの効果、自己開放、多世代交流、認知行動療法の知識(ものごとのとらえかたの修正)の取得が期待される。	自由に表現すること、枠組みの中で自己表現すること、他者との関わりをどのように感じていくかを学ぶ機会にもなった。参加者の何人かが、日常生活のストレスから開放される場であったと評価された。		
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください			
<input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかつた <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかつた			
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。			
助成金事業ということで興味を持たれた。芸術系の参加者や臨床心理を学んでいる若者の参加が増えた。社会参加にむけて橋渡しの役割を理解してくれた。			
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください			
<input checked="" type="checkbox"/> ①広がつた <input type="checkbox"/> ②多少広がつた <input type="checkbox"/> ③広がらなかつた			

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	<p>ワーク内容は参加者のメンバーをみてその都度変えているが、年明けの後半は、「表現すること」に高度な要求を増やしていった。「難しさを学ぶ楽しさ」に変えていくことができた。始めて参加した人はグループにつられていくメリットがあったようだ(グループダイナミックスの有効)。頭の中でのみイメージしている人間関係を立体的に「演じる」という演劇的表現を入れたことに対して、「疑似体験」として有効という参加者からの声があった。そのことから、事業の狙いはほぼ伝えられたように思えるが、課題は沢山残されている。とくに宣伝に努力が欠けていた。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>募金をわずかでも箱に入れてくれた参加者がいたうえ、助成金のおかげで広い場所を借りれることに多くの方が感謝していたため、今回の「杉並区NPO支援基金」への意識は広めることができた。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

5 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	<p>助成金のおかげで活動が広がって感謝するとともに、「演劇」の要素をいれると公共施設はかなり使用ができない部屋が多く、スケジュールを組むのが難しいことを実感した。予定が1ヶ月前でない公表できないため、仕事を持っている人から残念がる声が多かった。2~3ヶ月くらい先のスケジュールがたてられる方法を考えていきたい。座学よりムーブメントのほうが「自分ひとりではできないのでワークの意義を感じる」という参加者の感想を重視していき、徐々にグループ内だけでなく、外から(他者)の刺激を受けることを「ストレス」だけでなく「快感」に感じるパフォーマンスバージョンも課題としていきたい。</p>
----------	---

6 活動状況について



7 収支決算

事業費	[D]	225,962	助成金	[E]	166,600
-----	-----	---------	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入	団体負担金			13,362	団体負担金
	参加費・資料代等	100,000		46,000	500円X92人参加
	その他の収入				
	計	[C] 100,000	[F] 59,362		自己資金等
	助成金	[B] 166,600	[E] 166,600		NPO活動資金助成金
	合計	[A] 266,600	[D] 225,962		

	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)			42,000		精神科医師講師代金 14,000円(時給)X3時間
	小計	42,000	40,000	42,000	
②旅費・交通費				3,000	講師の福祉タクシー運転手代金
	小計		5,600	3,000	
③備品費・消耗品費				5,832	封筒
				5,028	インク
				9,163	コピー、文具など
小計		8,000		20,023	
④通信運搬費				4,100	DM切手
	小計		16,400	4,100	
⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)			80,000		テキスト・リーフレットデザイン代金
				5,520	リーフレット150部
小計	70,000		80,000	5,520	
⑥使用料・賃借料			54,600		施設使用料(阿佐ヶ谷地域区民センター20回)
	小計	54,600	10,000	54,600	
⑦その他の経費				7,400	保険料
				9,319	ふりかえりおしゃべりタイム飲み物など
小計		20,000		16,719	
合計			176,600	49,362	
	[B] 166,600	[C] 100,000	[E] 166,600	[F] 59,362	助成金額との差額
	[A] 266,600		[D] 225,962		

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

助成金対象事業報告書(平成30年度)

団体名	特定非営利活動法人ワーカーズコープ 杉並地域福祉事業所 浜ココ
事業名	浜ココ地域なんでも解決プロジェクト
事業(該当区分に○)	①. スタートアップ事業 2. ステップアップ事業
事業概要	地域の交流スペース「浜ココ」を開放し、多世代交流イベント、地域の孤食をなくすための食事会、地域の住民同士が困りごとの解決策を共に考え、探り、調査して、住民の思い描く地域づくりをマップに落とし、活用する「マップづくり」。これらの活動を通して、「浜ココ」に人を循環させ、多世代でみんなが安心して集まれる地域コミュニティをつくる。
事業目的	地域で生活する人々が安全で安心して過ごせる居場所づくりを目的とし、ここを拠点に住民が主体となって人と人をつなげ、情報ネットワークを広げることのできる地域コミュニティづくりを目指す。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	<p>①実施対象者・対象人数(延べ人数)</p> <p>1)『一緒にごはん』食事会 対象者: 地域の方々 利用者: 延べ 504人 (夜間: 2回/月×15人×12か月、昼間: 2回/月×6人×12か月)</p> <p>2) 交流スペース解放、多世代交流イベント 対象者: 地域の方々 利用者: 延べ 2,000人(5回/週×10人×4週×10か月)</p> <p>3)『なんでも解決MAP』づくり 対象者: 交流スペース解放などで情報をいただく地域の方々。 話し合いに参加する委員会5人以上(地域の高齢者の方々) 参加者: 月1回×5人×12か月</p> <p>ボランティアスタッフ: 1~5人</p>	<p>1)『一緒にごはん』食事会 対象者: 学童利用者、地域の方、ボランティア、法人のスタッフ 利用人数: 260人 ボランティア延べ人数: 32人 食育講座 利用人数: 10人 ボランティア人数: 3人</p> <p>2) 交流スペース解放、多世代交流イベント 対象者: 地域の方々 利用人数: 223人 イベント: ふれあい秋まつり、新春ふれあいまつり 利用人数: 98人 ボランティア延べ人数: 16人</p> <p>3)『なんでも解決MAP』づくり 対象者: ケア24浜田山、地域の浜ココ利用者、小さな場づくり会 参加人数: 15人</p>
	<p>②実施内容</p> <p>1)『いっしょにごはん』食事会 孤食をさけるため地域の多世代に呼び掛け、月2回の食事会をする。 季節行事などの特別な日の材料や必要な調味料、調理器具を調達する</p> <p>2) 交流スペース開放「りんくる」 ハンドメイドやテーブルゲームをしながら交流する。お茶やお菓子を食べながら情報交換しながらおしゃべりをしてつながりをつくる。また、企画でときどきワークショップも行う。普段スペース開放に来てくれる人たちに告知して、季節ごとに多世代交流イベントを行う。そのための広報用チラシも作成して配布する。</p> <p>3)『なんでも解決MAP』づくり 委員会をつくり、月一回お茶しながら話し合う。困りごとやその解決スポットを集め、調査しながら少しずつマップを埋めていく。また交流スペース開放も活用し情報を集める。完成したマップを地域の方々に配布する。</p>	<p>②実施内容</p> <p>1)『いっしょにごはん』食事会 夜間は主に学童利用をする子ども達と保護者と地域のボランティアの方が参加。NPO助成金の入ったチラシのおかげで理解が広がり参加が増えた。子どもたちにとっては大勢と食卓を囲む機会となり定着しつつある。 昼間は浜ココを利用している高齢者の参加が主であったが、7月~9月は猛暑により日中の利用がなかった。10月からの開催を考えていたがスタッフが怪我をし開催ができなくなったが、いつも利用する方たちがお昼以外の時間を過ごしたり、持ち込みでお昼を食べて過ごした。</p> <p>食育講座 年末に参加した協働プラザの交流会で出会った食育ボランティアの安野さんに来ていただき子どもたちに向けて講座を開催。少ない人数ながら楽しい時間を過ごせた。地元杉並の地域の方との関係ができ今後の活動に繋がった。</p> <p>2) 交流スペース開放「りんくる」 フリーマーケットに来る高齢者の方を中心に、中古傘をリメイクし、エコバックを手作り。リメイク傘バックとしてフリーマーケットなどで販売した。フリーマーケットを常設していることから近所の方でリサイクルやリメイクを心掛けている方も多く、物品の寄付も盛んに行われた。 イベント 秋のふれあいまつり 新春浜ココまつり 2回お祭りを開催。10/14開催の秋祭りは8月に浜田山小学校で開催された盆踊り大会に提灯作りを提案し参加したことをきっかけに、ハロウィーンのお絵かきイベントに学童利用の子ども達の参加も多かった。町内会や浜田山の地域づくりに参加されている方が自宅で焙煎しているコーヒーで販売して頂いたり、寄付物品も多数あり地域の方に参加して頂けるイベントに繋がっていった。</p> <p>3)『なんでも解決MAP』づくり 8月より月1回打ち合わせを設け、協力各所やお祭り、イベントに参加された方にアンケートを取った。地域包括の方などの協力もあったが酷暑による人の集まりの悪さや、毎回の参加がまばらになっていったことなどもあり活動が停滞。アンケートにある気になる場所を取材に行くもほとんどが取材拒否という状況で手詰まりが続き、事業所を移転する事もこのマップ作りの方向性を見直さなければならぬ要因として考え、残念ではあるが活動を断念した。</p>

<p>③実施回数・スケジュール・実施場所 場所はすべて浜ココ</p> <p>1)『いっしょにごはん』食事会 夜間月2回、昼間月2回 2)交流スペース開放「りんくる」 週5回(ワークショップ含む) ・多世代交流イベント 年4回(季節ごとに行う)</p> <p>3)『なんでも解決MAP』づくり 集まってる話し合い3回+完成おひろめ会1回 (各月1回の調査含む計4か月)</p>	<p>1)『一緒にごはん』食事会 開催場所:浜ココ 夜間:16回 6/6、6/29、7/4、7/20、8/1、8/24、9/19、10/3、10/17、11/7、 11/21、12/5、12/19、1/16、2/6、2/20 昼間:2回 6/25、8/30、 食育講座 1回 開催日:2/6 2)交流スペース解放、多世代交流イベント 対象者:地域の方々 開催期間:6/1~2/20 イベント:2回 開催日:10/14、1/27 3)『なんでも解決MAP』づくり 開催回数:4回 8/30、9/27、10/25、11/29</p>
<p>④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) スタッフ3人を軸に企画し活動。 必要に応じて同法人の他現場から応援可能 社会連帯(地域づくりの会) 会員10数名</p>	<p>④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) スタッフ3人を軸に企画し活動。 必要に応じて同法人の他現場から応援を要請した。</p> <p>1)『一緒にごはん』食事会 対象者:学童利用者、地域の方、ボランティア、法人のスタッフ ボランティア延べ人数:32人 スタッフ:3人 食育講座 ボランティア人数:3人 スタッフ:3人 2)交流スペース解放、多世代交流イベント 対象者:地域の方々 イベント:ふれあい秋まつり、新春ふれあいまつり スタッフ:3人 ボランティア延べ人数:16人 3)『なんでも解決MAP』づくり 対象者:ケア24浜田山、地域の浜ココ利用者、小さな場づくり会 スタッフ:3人</p>
<p>⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) ・自分たちで活動のチラシやパンフレットを作成する。それを普 段の交流スペース開放時に掲示し、配布する。加えて地域の他 団体等のチラシを置くことで情報拠点として機能し、相乗効果で 自分たちの広報につなげる。 ・HP、ツイッター、団体用フェイスブックなどのSNSなどを活用 する。 ・マップづくりの取材や調査を通して活動を広める。完成したマッ プそのものが広告の役割も果たすと思われる。</p>	<p>⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) 各活動のチラシを作成。(※別紙参照)商店街、地域包括、協働ブラ ザ、浜ココ利用者、関連NPO法人事業所、別団体になどに200枚~ 500枚近く毎回、印刷し配布した。 HP等を利用し、FACEBOOKなどでも広報活動をしたが、やはりロ コミに勝る集客は無かったように思われる。 8月に地域活動として浜田山の盆踊り大会に参加することで認知度 が上がったのでこうした地域活動の重要性を感じた。</p>

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

	事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。	
	<p>「浜ココ」は主に小学生の一時預かりなどのスポット利用を中心に放課後の居場所の運営を行ってきた。ひとり親家庭の子どもを主な対象にした「一緒にごはん」を月2回開催し、子育て支援も行っている。一方、買物の行き帰りに立ち寄る高齢者やフリーマーケットの寄付を届けに来る住民もあり、住み慣れた地域で交流したり、その喜びを共有したりすることの大切さに気づいた。これからは顔の見える関係づくりや支え合いの拠点にしていきたい。</p>	<p>1)『一緒にごはん』食事会 孤食をなくす、大勢で食卓を囲み多世代交流をする、地域の居場所作りをする。などの狙いはあるが、16回の開催中10人～20人という参加があり、地域の方で子どもの為にボランティアに来て下さる方なども定着してきた。いつも利用しない子ども達や、保護者、ボランティアの参加も安定的になった。当初予定していたニーズがあったといえるのではないだろうか。次のステップとしては食材の提供を増やす事と、移転に伴う宣伝活動、メニューの充実ではないだろうか。</p> <p>2) 交流スペース解放、多世代交流イベント 買物の行き帰りに立ち寄る高齢者やフリーマーケットの寄付を届けに来る住民もあり、住み慣れた地域で交流したり、その喜びを共有したりすることを目的としたが、立ち寄りの場としては今まで通りの利用もあったが、異常気象に伴う酷暑や寒暖の差などが立ち寄り大きく影響。チャランなど配るもなかなか人は集まらなかった。立ち寄りの場として事業所が商店街に面していたことは認知を広げるチャンスがあったが、年末に小学校近くの住宅街に移転し、ニーズも役割も大きく見直していく事になっていった。</p> <p>3)『なんでも解決MAP』づくり 開始から人が集まらず、主体的にマップを作っていくメンバーが定着しなかった。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/>①あった <input type="checkbox"/>②概ねあった <input checked="" type="checkbox"/>③あまりなかった <input type="checkbox"/>④ほとんどなかった</p>	
効果・成果 及び 自己評価	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。	
	<p>学童保育のニーズを受けて立ち上がった交流拠点のため、働くお母さん、お父さんの支援が得られている。浜田山は両親とも働く家庭が多く、多忙のため、仕事以外の時間がなかなか取れないが、関心を持って応援してくれる人が多い。立地が浜田山駅近くであること、スーパー裏に隣接することなどから、独居の方や困難を抱えている方、散歩に来られた赤ちゃんと一緒のお母さん、近所の高齢者の方など多世代の出入りが多い。</p>	<p>1)『一緒にごはん』食事会 法人として杉並の委託現場として3学童を運営していることから子どもの居場所としての食事会を1年前から開催していたが、杉並区のNPO助成金のロゴがチラシに入ることにより、より認知と理解が深まった。</p> <p>2) 交流スペース解放、多世代交流イベント 商店街近くという立地から、事業所ができた当初から高齢者の立ち寄りの場として機能している面が多く、天候の急変などで立ち寄りとして利用する人もいた。しかし、異常気象に伴いそもそも立ち寄りができる状況ではなくなっていた。</p> <p>イベントにおいては移転前の場所で1回、移転後の場所で1回開催したが人通りが多い分様々な人の出入りがあったのは商店街に面していた分移転前の場所であった。 移転後の場所は小学校に面していることから子どもたちの出入りや認知が大きく、高齢者の居場所から子どもたちの居場所へと変化してきている。</p> <p>3)『なんでも解決MAP』づくり マップづくりに必要なアンケートは呼びかけた方は快く協力してくれた。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/>①できた <input type="checkbox"/>②概ねできた <input checked="" type="checkbox"/>③あまりできなかった <input type="checkbox"/>④ほとんどできなかった</p>	
効果・成果 及び 自己評価	当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。	
	<p>(区民や地域にもたらず具体的な効果はどのようなものがあると考えていますか)</p> <p>インターネットではない紙媒体の情報の集まるスポットとして認知が高まることで、インターネットが使えない方や、インターネットでは得られない地域の情報をダイレクトに得られる。そのことで地域とのつながりも深まり、行政機関や民間、自分たちが暮らす地域と触れ合うことができる。カフェや食事会を通して孤食ではなく多世代との交流がある時間を持つことができる。また、元気な高齢者の知恵を多世代に伝える場所にもなり、生きがいにつながる。</p> <p>(助成を受けることで、団体活動や事業発展にどのような効果(継続性・発展性)がありますか)</p> <p>助成によって交流の場としての認知度が高まり、多くの人の利用が期待でき、地域づくりにつながる。また、当法人の事業目的である地域における仕事起こしの発展が見込める。</p>	<p>1)『一緒にごはん』食事会 助成によって交流の場としての認知度が高まり、多くの人の利用があった。回数こそ当初予定には満たなかったが、参加人数は毎回15人以上のため今後も認知を広げ、内容を充実させたい。</p> <p>2) 交流スペース解放、多世代交流イベント 高齢者としての立ち寄りの場所としての機能は事業所の移転に伴い、高齢者の立ち寄りの場としての機能は失われつつある。 移転前の事業所は商店街に面していたことから、助成を受けたことで安心感を与え営業を掛けやすくなった。</p> <p>3)『なんでも解決MAP』づくり 今回のマップ作りは人が集まってこまごまや場所の情報交換をしながら作っていくやり方だったので、人が集まらず活動自体が破綻してしまっただけでなく、アンケートは呼びかければ書いてもらえるが、それをもとに話し合いをするメンバーはなかなか集めることができなかった。 マップづくりに限らず、地域の協力なしではできない活動をするためには地道に事業を継続し、時間をかけて理解者を募らなければならないことがわかった。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/>①できた <input type="checkbox"/>②概ねできた <input checked="" type="checkbox"/>③あまりできなかった <input type="checkbox"/>④ほとんどできなかった</p>	
効果・成果 及び 自己評価	今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。	
	<p>理解者や支援者は増えた。助成を受けている事業所であると話すことにより単なるNPO法人から付加価値が付いた。一歩踏み込んだ話しをしても怪しまれずに話を聞いてもらえたり、実際にボランティアに来て下さる方などができた。</p>	
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/>①広がった <input checked="" type="checkbox"/>②多少広がった <input type="checkbox"/>③広がらなかった</p>	

団体名： 特定非営利活動法人ワークスコープ 杉並地域福祉事業所 浜ココ

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	予定していた通りにはあまりできなかった。多世代交流イベントは予定の半分の実施、MAPづくりは完成することができず計画自体がとん挫してしまっ。地域で自分たちで人を集めることの大変さを思い知った。「いっしょにごはん」食事会 は昼の部は予定の半分くらいしか実施できなかったが夜の部は盛況で、地域の協力者、子ども達の居場所として定着することができた。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input checked="" type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	計画より人を集めることができなかったので普及啓発活動はあまりできなかった。今回の取り組みで人を集めることの難しさを知ったので、反省を活かして今後も地道に活動を続けて『NPO支援基金』の普及啓発に貢献できるようがんばりたい。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input checked="" type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった

5 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	2019年に入り事務所移転があり、小学校近くなり、以前より子どもやその家族にみられるようになった。集まる子ども達をきっかけに多世代の居場所として認知を広げていきたい。地域に根差した居場所をつくることを念頭に置きながらも、変化する人の流れをつかみながら地域の人達と協力する体制を作っていきたい。
----------	--

6 活動状況について



団体名： 特定非営利活動法人ワークスコープ 杉並地域福祉事業所 浜ココ

7 収支決算

事業費	[D]	270,532	助成金	[E]	123,316
-----	-----	---------	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入	団体負担金	50,000	10,000	10,000	年会費 @1,000円×10人
			55,616	55,616	団体負担金
参加費・資料代等		127,200	64,300	64,300	いっしょにごはん 18回 延べ260人
その他の収入		200,000	3,500	3,500	交流スペース解放
			13,800	13,800	イベント 2回
計	[C]	377,200	[F]	147,216	自己資金等
助成金	[B]	300,000	[E]	123,316	NPO活動資金助成金
合計	[A]	677,200	[D]	270,532	

費目	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金等 (講師が団体内部の 場合は対象外)			2,000		2/6 食育講座 講師料
小計	100,000		2,000		
②旅費・交通費			4,928		いっしょにごはん ヘルプ 8回 交通費
小計	33,000		4,928		
③備品費・消耗品費			95,011		カラーボックス POP ペン 飾り付け インク コピー用紙 ゴミ袋 他
小計	19,000	4,800	95,011	439	ガスボンベ 布
④通信運搬費			16,927		切手代
小計		72,000	16,927	59,761	電話・インターネット
⑤印刷製本費 (デザイン・原稿 作成含む)			400		コピー代
小計	143,000		400		
⑥使用料・賃借料					
小計					
⑦その他の経費			3,823		鍋
小計	5,000	300,400	4,050	87,016	源泉徴収分 おかし、景品、お汁粉材料、飲み物代 いっしょにごはん材料費 19回
合計	300,000	377,200	123,316	147,216	
	[B]	[C]	[E]	[F]	
	300,000	377,200	123,316	147,216	
	[A]		[D]		
		677,200		270,532	

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

助成金対象事業報告書(平成30年度)

団体名	特定非営利活動法人 サービスフロンティア
事業名	子ども目線で作る杉並昔話(33話の中から)紙芝居制作講座
事業(該当区分に○)	1. スタートアップ事業 <input type="radio"/> 2. ステップアップ事業 <input checked="" type="radio"/>
事業概要	<p>1. 杉並昔話(33話)を紙芝居にして口演年数12年。口演依頼者は老人施設等が多かったが、近年は保育園児(1歳～5歳)小学生が多くお客様が若返った。</p> <p>2. すかい口演者は当初21名でスタートしたが、転居・病等があり、現在5名で展開。</p> <p>3. お客様の若返りを受けて、紙芝居の演目を充実し乳幼児口演に応えながら、すかいの後継者を育てたいと考えている。</p>
事業目的	<p>1. すかい後継者の育成が目的で、「第二世代すかい」では、乳幼児向けにも対応口演できる紙芝居と人材を備えたい。</p> <p>2. 子どもの共感を得るために、紙芝居の構成を変化させることも必要と考えて、新たな絵構成・セリフ等を取り入れる。</p> <p>必要なもの 男: 太い大きな声 女: 高い易しい声 紙芝居: 局所を大きく描く絵構成。</p>

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	<p>①実施対象者・対象人数(延べ人数)</p> <p>1. 年齢・性別を問わず</p> <p>2. 声を出すこと、絵を描くこと、子ども達とコミュニケーションをとること等に興味があること</p> <p>3. 参加数25名(5班編成) 1班1紙芝居をグループ制作 講座回数8回予定</p>	<p>定員25名で募集→応募35名</p> <p>1グループ5～6名 6グループ編成し開講</p> <p>10/20～2/16 全8回講座</p>
	<p>②実施内容</p> <p>主な講座内容</p> <p>1. 講師3名</p> <p>2. 杉並昔話の説明</p> <p>3. 紙芝居口演(講師による)</p> <p>4. 5班編成</p> <p>5. 紙芝居デモ口演</p>	<p>講師 2名(田中幸美氏、志村弘昭氏)</p> <p>講師によるデモ口演、スタッフによるデモ口演</p> <p>杉並昔話12話を紹介、その中から1グループ1話制作(協同作業)</p>
	<p>③実施回数・スケジュール・実施場所</p> <p>実施場所: 地域区民センター教室</p> <p>講座回数: 8回程度</p> <p>スケジュール: 30年11月～31年2月</p> <p>11月土曜PM2回、12月土曜2回、1月土曜2回、2月土曜2回</p> <p>卒業口演: うち1回</p>	<p>第1回(10/20)交流コーナー</p> <p>第2回(11/03)交流コーナー</p> <p>第3回(11/17) 細田工務店</p> <p>第4回(12/01)第6集会室</p> <p>第5回(12/15)交流コーナー</p> <p>第6回(01/19)細田工務店</p> <p>第7回(02/02)第6集会室</p> <p>第8回(02/16)第6集会室(成果発表会)</p>
	<p>④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況)</p> <p>1) すかいメンバー5名並びにゲスト講師で講座実施可能</p> <p>2) ゲスト口演者2名</p>	<p>講師2名の外 補助スタッフ3名で講座進行</p> <p>講座の合間にデモ口演をする</p>
	<p>⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況)</p> <p>小学校(特に、3年生・地域の歴史授業、保育園関係者に広報</p>	<p>募集チラシを作り、区内保育園、児童館、学校支援本部、青少年育成委員会などにPR</p>

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

	事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。	
	1.お客様内訳(直近3カ月) 大人246名、子ども416名(小学生206名、乳幼児210名) 上記のとおり、子ども向け紙芝居が必要と考える。	受講生の中に保育園の職員や、児童館でのボランティア学校支援本部のメンバー、青少年委員などがいて制作した紙芝居を今後利用予定。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください	
	<input checked="" type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった	
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。	
	すかいの紙芝居は、設立当初より、地元の昔話・民話を題材に選んでいるため、独自路線を歩んでいる。杉並区の文化度醸成に寄与していると自負している。	受講生の中に保育園の職員や、児童館でのボランティア学校支援本部のメンバー、青少年委員などがいて制作した紙芝居を今後利用予定。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください	
	<input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった	
	当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。	
	1.すかいの口演テーマは、自分の住んでいる地域に昔話があることを知れば、自然に地域を愛する気持ちが湧き出てくる。 2.地域の歴史・伝承されている事象等を具体的に知ることで、想像力・自然への崇敬・人の行動の多様性等を考えることにつながっていく。 3.参加者による第二すかいを設立し、杉並区の昔話33話を伝承したい。	受講生の中で次に作る紙芝居は自分の地域の話に興味を持った。グループの仲間で話し合っているようだ。
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。		
受講生の中で今回のような講座を再度希望する要望がある。 今回のグループ分けでグループ内の仲間同士で連絡を取って活動を広めようとしている。		
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input checked="" type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	当初は人集めに保育園を中心にPRをしたが、保育士の業務多忙などで当初の計画通りには行かず小学校を対象とした支援本部、育成委員会などに切り替え、応募者が多数となる。開講をしグループ分けをしたが各グループにリーダー的な人がおり皆で作業を分担しスムーズに講座が進行し回を追う毎に絵が完成してゆき、楽しんでいる様子で良かったと思う。
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	講座がNPO支援基金の助成で開講をしている事を受講生に説明をしたせいか募金に理解を示してくれた。
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

5 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	今回の受講生の作品を発表する機会の提供と、「すかい」のメンバーに参加して活動をし紙芝居の面白み効用を広めたい。
----------	---

6 活動状況について



7 収支決算

事業費	【D】	294,363	助成金	【E】	238,713
-----	-----	---------	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入	団体負担金	33,658	20,650		団体負担金
	参加費・資料代等	25,000	35,000		参加費@1,000円×35名
	その他の収入				
	計	【C】 58,658	【F】 55,650		自己資金等
	助成金	【B】 400,000	【E】 238,713		NPO活動資金助成金
	合計	【A】 458,658	【D】 294,363		

	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)			108,000		講師代 @6,000円×3H×3日×2名=54,000円
	小計	162,000	108,000		
②旅費・交通費				45,000	講師交通費
	小計	45,000		45,000	
③備品費・消耗品費			8,664		色鉛筆(@1,100円×7) 名札一式 964円
			8,337		画用紙 7,560円 マーカー 777円
			1,080		鉛筆、消しゴム 1,080円
	小計	23,166	18,081		
④通信運搬費					
	小計				
⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)			56,032		チラシ、ポスター代 56,032円
			10,000		パネル代 10,000円
				10,650	コピー代 10,650円
	小計	71,334	13,658	66,032	10,650
⑥使用料・賃借料			12,600		会場使用料 区民センター@4,200円×3回
	小計	72,000		12,600	
⑦その他の経費			34,000		ボランティア実費弁償 @2,000円×3名 延べ 17回
	小計	71,500		34,000	
合計			238,713	55,650	
	【B】 400,000	【C】 58,658	【E】 238,713	【F】 55,650	
	【A】 458,658		【D】 294,363		

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

助成金対象事業報告書(平成30年度)

団体名	特定非営利活動法人 竹箒の会
事業名	アートカードで健康長寿
事業(該当区分に○)	1. スタートアップ事業 2. ステップアップ事業
事業概要	「アートカード」を使ったゲームは、対話重視の美術鑑賞で、楽しく簡単に取り組みます。そのうえ、人々の心を豊かにし、脳の活性化、コミュニケーション力を育みます。区立小学校向け成功例のノウハウを活用し、高齢者向けのプログラムを開発、その活動を通して身近な地域コミュニティの活性化・超高齢社会の地域課題解決に貢献します。
事業目的	孤立しやすい高齢者の仲間づくり・居場所づくり、認知症予防、健康長寿など 超高齢社会の地域課題解決 (注)初年度の担い手育成・試行実施は、ゆうゆう館3館のみだが、中期的に32のゆうゆう館はもとより、地域区民センター、地域集会所、きずなサロンなどに拡大し、地域コミュニティの活性化に貢献できる。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) 域コミュニティ等で活動する人材(アートカード・コミュニケーター、原則として無償ボランティア)を公募により養成、1期生20人程度。 年度後半に一般区民を対象にアートカードゲーム体験会を開催(数十名予定)	公募ボランティアは20名に至らず13名となった。しかしながら13名はほぼ全員が欠席もなく、熱心に参加した。 年度後半にアートカードゲームを行ったのは計6回(ゆうゆう高井戸西館出張講座3回、阿佐谷北館きずなサロン1回、個人的高齢者集会での提供1回、区外だが文京区ミドルシニア講座にて1回対象人数約100名)。
	②実施内容 ・新事業PR、関心のある区民への体験&説明会とシンポジウムを開催 ・アートカード・コミュニケーター(ボランティア)の募集、採用、育成 ・高齢者向け、世代間交流向けプログラムの開発 ・中長期的な組織体制・中長期ビジョンの検討、着手 ・ゆうゆう館3館で一般区民向けの体験会を試行実施	シンポジウムは9月29日高円寺南館で開催。約24名の区民が参加、成功裏に終了。 コミュニケーターはシンポジウムほか説明会を4回開催、計16名が参加、うち13名が継続して活動。 既成のゲーム10種類を学習、高齢者向けにどのように遂行するか、検討、開発途上。区民向けで実施しつつ、反省点を踏まえ推敲している最中。 また、次年度にむけてアートカードゲームを開催できる団体との接触を図りつつ活動場所の確保を目指している。 次年度は「わが街アートカード」作成に着手すべく検討中。 体験会はきずなサロン、ゆうゆう館、個人的につながるのある高齢者集会等。
	③実施回数・スケジュール・実施場所 実施場所:竹箒の会が受託するゆうゆう高円寺南館がメイン スケジュール・実施回数: 5~7月 参加者募集準備、研修・組織運営準備、広報活動 8月 ボランティア募集(体験&説明会は約10回)、シンポジウム開催 9月~ 研修、プログラム開発、約18回 2月頃 一般区民向け体験会の開催、約15回	5月~7月準備期間は、研修会体験会シンポジウム開催準備活動、チラシ作成等。 8月ボランティア体験会及び説明会は計4回実施。 9月シンポジウム開催、10月よりコミュニケーター研修会開催月2回(原則第2・4火曜日)10回 また運営スタッフ3名によるプログラム開発検討会9月以降計12回実施。 区民向け体験会(区外も含む)は12月以降計6回実施。
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) 実施体制(必要とされる人員や設備等、実施方法や人員等の確保状況) ・NPO芸術資源開発機構理事・『月曜美術館』著者と竹箒の会スタッフが企画運営 ・『「脳力」を覚醒する美術鑑賞』著者である大学教授・芸術学博士の参画 ・地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所のチーム(日本世代間交流学会事務局を兼務、絵本読み聞かせ活動も支援)と連携 ・以上に加え新規募集の一般区民ボランティア約20名が役割分担予定	NPO芸術資源開発機構理事・『月曜美術館』著者(小口)は、今まで小学生向けに事業を行っていたこともあり、高齢者向けの開発に実際にかかわることが難しく、外部の立場から経験を踏まえてアドバイスするスタンスに変更、後をもともと高齢者向け企画を多く行ってきた竹箒の会スタッフが実績を踏まえ、実働を引き受けて実施。幸い美術に詳しい竹箒の会スタッフ2名がおり、順調に運営。外部より、美術専門家・認知症専門家、カウンセラーによる積極的なアドバイスを受けた。
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) ・広報すぎなみへの情報掲載、地域区民センター・図書館へのチラシ配布 ・その他ニーズの見込める団体、施設、NPO等への案内 など	チラシを区内各所に配布し、認知をはかる。 広報すぎなみへの掲載はなかなか効果を得るところまで行かないが、地域コムで広報場所を確保、思いもよらないところよりの問い合わせもあり(発達障害児の会を主宰する目白大学教授、杏林大学の看護師学科教授、県立岩手美術館専門学芸員)実際に体験会を開催した折にケア24より積極的アプローチもあった。ニーズは確かに顕在することを確信できたの出来年度につながる実感がある。

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

	事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。	
	もともと小学生向けといいながら、高齢者にもかならず必要があると考えた。	ご参加のほとんどの方が高齢かなりの関心を寄せてくださり、当初の予想ニーズを実感した。ただ高齢者と一口に言っても60代、70代、80代、90代また年代だけではなくその方の性格等で対応を変えなければいけないことを実感しました。 事前に用意したゲームを臨機応変でレベルを変えて実施する必要があることを痛感しています。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください	
	<input checked="" type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった	
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。	
	区立小学校でのアートカードゲーム導入で実績を持つNPO法人芸術資源開発機構(ARDA)のノウハウを活用することができる。 また当会はゆうゆう館3館を受託しており、場所とスタッフを確保でき、また日ごろ、多くの元気な高齢者と接点があり、共にこの事業を興し育てていくことができると考えた。	参加メンバーにARDAと並行して活動するものがあり、そのノウハウを実際にメンバーに教授してくれ、大いに参考になりました。小学生と高齢者とは理解力が異なったり、同じゲームでもとらえ方が異なるケースもあり、その都度の臨機応変の対応が求められましたが、ARDAの実施方法を基本にしてそのうえでの調整を行い、ARDAメンバーは大いに活動に寄与してくれました。 ゆうゆう館では現時点では1館での開催ですが、他2館でもこの事業への理解が進み、来年度は開催の方向で調整済。
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。		
健康長寿、地域コミュニティの活性化、世代間交流等の地域課題解決に貢献することができる。 また助成により、活動に必要なボランティアの確保、高齢者向けプログラムの開発、一般区民への周知が図れ、本格実施への体制が整う。	あまりにも大きな課題を掲げたことを面はゆく感じっていますが、志はこのとおりで、今後、健康長寿、地域コミュニティの活性化、世代間交流等の地域課題を基本に据えて活動を継続していく所存です。 助成による効果は記述した通り、本格実施への体制が整いつつあります。	
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。		
前述した通り、東京都健康長寿医療センター、発達障害児サロン主宰者(目白大学教授)、杏林大学看護学科講師、県立岩手美術館等から具体的な連携の打診や開催依頼があり、区内でもケア24阿佐ヶ谷からの問い合わせもあり、想像以上に支援者理解者があることを実感しています。		
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input checked="" type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	<p>予定通りすべてというところまでは行かないが、概ね順調に踏み出せたという感想を持っています。計画を欲張りすぎたという反省はあり、実際に区民向けの体験会は計画通りに回数をこなすことが難しかったが、手ごたえは確実にあるので今後引き続き開催に向け努力していきたいと考えます。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>この活動がNPO支援基金による助成でできていることを必ずお話しするようにしており、普及活動を感謝を持って行わせていただきました。ただ、まだ体験会等開催数が少なく、対象が100名程度なので、十分とは言えず、今後この助成が終了しても感謝を忘れず、この事業を踏み出すきっかけを作ってくくださったことに感謝していきたいと考えています。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

5 課題と今後の活動について

今後課題と活動	<p>ニーズがあることも確認できましたし、ゲームに参加いただいた方々の満足度も高いことが確認でき、さらに意欲のある仲間も作る事ができましたので、さらに需要を掘り起こして、真に「健康長寿」に資することのできるプログラムを独自に構築していくことがまず第一の課題です。ゆうゆう館に来館される元気な高齢者、フレイル状態にある方々、介護施設等を利用されている方々へのそれぞれの需要にこたえる最適プログラムを構築していきたいと思えます。また、同時に、このプログラムの意義を理解しともに実施してくれる団体を増やす活動を行なっていきます。その際、異世代交流、多世代交流も視野に入れ、対象を増やしていきたいと考えています。</p>
---------	--

6 活動状況について

★具体的な活動風景の写真などを貼付




7 収支決算

事業費	[D]	464,262	助成金	[E]	392,520
-----	-----	---------	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入					
団体負担金		50,000		71,742	団体負担金
参加費・資料代等		20,000			実績なし
その他の収入		200,000			実績なし
計	[C]	270,000	[F]	71,742	自己資金等
助成金	[B]	500,000	[E]	392,520	NPO活動資金助成金
合計	[A]	770,000	[D]	464,262	

費目	予算額		決算額		決算額内訳	
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費		
①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)			40,000		シンポジウム講師料(10,000円/h×2h×2名)	
			40,000		アートカードゲーム研修会講師料(10,000円/h×2h×2名)	
			160,000		コミュニケーション研修講師料(10,000円/h×2h×8回×1名)	
			20,000		カウンセリング研修会講師料(10,000円/h×2h×1回×1名)	
小計	360,000	50,000	260,000			
②旅費・交通費						
小計						
③備品費・消耗品費			1,880		研修会用文具等	
			28,120	1,742	研修用アートカード7部(29,862円)	
小計	30,000	150,000	30,000	1,742		
④通信運搬費			2,520		チラシ配布用、研修会通知	
小計	10,000		2,520			
⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)			100,000	70,000	チラシ2種 5,000枚、2,000枚	
小計	100,000	70,000	100,000	70,000		
⑥使用料・賃借料						
小計						
⑦その他の経費						
小計						
合計			392,520	71,742		
	[B]	500,000	[C]	270,000	[E]	392,520
	[A]	770,000	[D]	464,262	[F]	71,742

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

助成金対象事業報告書(平成30年度)

団体名	特定非営利活動法人てんぐるま
事業名	すぎなみ「心のバリアフリープロジェクト」
事業(該当区分に○)	1. スタートアップ事業 <input type="radio"/> 2. ステップアップ事業 <input checked="" type="radio"/>
事業概要	オリンピック・パラリンピックの開催に向け、「心のバリアフリー」(ユニバーサルデザイン2020)の取り組みが各方面で進んでいる。心身障害児・者の権利擁護の活動を進めている当NPO法人もこの機会に以下のような啓発プログラム・相談会を実施する。杉並在住の脳性マヒ当事者を企画コーディネーターに、①重度心身障害児と親の会「みかんぐみ」との協働で重度障害児者の自立と成長、医療ケアの問題について区民の理解を深める講演会②障害者による演奏とアートのイベント③障害児者と家族の相談会(4回開催)。
事業目的	エレベーター設置などのハードなバリアフリーをはじめ、障害者への理解を深めるなど、社会的障壁を解消するため、障害がある人とのコミュニケーションや自立生活にテーマを絞って学習会等を開催する。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) 対象者:杉並区民、・障害当事者、保護者、教育関係者、福祉関係者対象人数: 1.講演会300人(3回×100人) 2.イベント150人(1回) 3.相談会120人(4回×30人)	①実施対象者・対象人数 対象者:杉並区民、・障害当事者、保護者、教育関係者、福祉関係者対象人数: ◇講演会(9/17)40人(10/20)55人(11/25)80人(2/23)65人 ◇イベント(1/14)80人 ◇相談会80人(4回×20名)
	②実施内容 ◇講演会(テーマ)1.「障害のある人と、そのパートナーたち」2.「障害児の成長から障害者の自立」3.「医療ケアと障害当事者のコミュニケーション」 ◇イベント 「障害とアートと音楽と」 ◇相談会 「障害児者と家族の相談会」	②実施内容 ◇講演会1.「障害者だって、恋をする～パートナーとの暮らしのはなし～」(9/17)阿佐ヶ谷地域区民センター 2.「ある日..車椅子の娘が『ひとり暮らしがしたい』と言い出した!」(10/20)高井戸地域区民センター 3.「医療的ケア児(者)って知ってますか?」(11/18) 4.「ぼくらの『こえ』のかたち」(2/23)高井戸地域区民センター ◇イベント「障害とアートと音楽と」(1/14)座・高円寺 阿波おどりホール ◇相談会「障害児者と家族の相談会」(10/21,11/18,12/9,1/6)
	③実施回数・スケジュール・実施場所 ◇講演会=区内地域区民センター(3回) ◇イベント=区内区民ホール(1回) ◇相談会=区内区民センター(4回)	③実施回数・スケジュール・実施場所 ◇講演会(4回)1.(9/17)阿佐ヶ谷地域区民センター 2.(10/20)高井戸地域区民センター 3.(11/18)ウエルファーム杉並4.(2/23)高井戸地域区民センター ◇イベント(1回)「障害とアートと音楽と」(1/14)座・高円寺 阿波おどりホール ◇相談会(4回)「障害児者と家族の相談会」(10/21)阿佐谷地域区民センター(11/18)阿佐谷地域区民センター(12/9)高井戸地域区民センター(1/6)阿佐谷地域区民センター
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況)◇スタッフ=10人(てんぐるま5人、みかんぐみ5人) ◇コーディネーター=1人(川合千那未さん) ◇設備=マイク、プロジェクター等(※イベントは音響照明設備も)	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) ◇スタッフ=10人(てんぐるま5人、みかんぐみ5人) ◇コーディネーター=1人(川合千那未さん) ◇設備=マイク、プロジェクター等(※イベントは音響照明設備も)
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) ◇当法人のウェブサイト ◇フェイスブック ◇チラシ(区民センター、会館、集会所など) ◇杉並区広	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) ◇フェイスブック ◇チラシ(区民センター、会館、集会所など) ◇杉並区広報 ◇アンケート記入者へメール連絡

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

		事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。		
		ユニバーサルデザイン2020行動計画に伴う東京都の差別解消条例制定への動きなど、取り組みが遅れている心身障害者の社会的な差別解消に本格的に取り組む機運が生まれている。杉並区が取り組む基本構想(10年ビジョン)でも同趣旨の方針が盛り込まれており、区内で取り組みを推進する好機にある。これまでの当NPO法人と「みかんぐみ」の協働事業により、杉並区のユニバーサルデザインの推進につながる活動を行うことができる。	今年度は特に「障害者の自立とコミュニケーション」をテーマにイベントを行うことになった。障害当事者の恋愛、一人暮らし、医療的ケア児、発語の出来ない人のコミュニケーション方法など、一般区民にはなかなか知り得る機会の少ない内容であり差別解消のための啓発活動になった。障害のある子の親御さんからは自立やコミュニケーションなどについての関心の高さが伺えた。
		【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください	
		<input checked="" type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった	
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。		
		法人設立以来、様々な学習会・講演会を開催しているほか、障害者団体等とのネットワークができていて、事業実施に協力が得られる。特に杉並区在住の自立生活されている障害当事者に企画のコーディネートで参加してもらっている。	今年度は杉並区在住の障害当事者である川合千那未さんにイベントコーディネーターをお願いし、当事者視点からの斬新なイベントや講演会ができた。また、区内の重度心身障害者と親の会であるNPO法人みかんぐみさんからもイベントに毎回ゲスト参加していただき、親の視点からご意見をもらうなどの協力が得られて内容も充実したものにできた。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
	<input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。			
	障害者の立場や社会的障壁、バリアフリーの概念の周知により、差別解消へ一歩前進し、インクルーシブ教育の普及・推進にもつながる。今回の助成事業により、障害者団体や関係NPO団体とのネットワークが強化・拡大され、今後の事業展開の推進力になる。	障害当事者の自立とコミュニケーションの問題を提示していただくことで、一般区民には、なかなか触れることの出来ない当事者の現状や社会的障壁を伝えることができた。参加者ひとりひとりが知ることで社会の差別解消に近づいていくと感じた。また、今回のイベントコーディネーターや協同先だけでなく、参加してくれた障害当事者団体や福祉関係者、教育関係者など新たな繋がりができ、今後の事業展開にもより一層幅を持たせることができる。	
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
	<input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。			
	杉並区在住の障害当事者である川合さんと、NPO法人みかんぐみさんに協力いただき、講師としてお招きした障害当事者個人・団体やその周辺の方々との繋がりが深まった。音楽とアートのイベントでは出演バンド以外にもみかんぐみさんからハート・トゥ・アートさんをご紹介していただけた。今後の活動事業に活かせる人脈が出来たと感じた。来場者からはイベントに対してもっと多くの人を知るべき内容という感想が多く、年度を通して何度か足を運んでくださる方もあった。今後も啓発活動を継続し、より多くの区民に訴える必要性を感じた。		
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
	<input checked="" type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	講演会は当初3回の予定だったが、イベントコーディネーターの企画案が豊富にあったため、講演会は4回行うことになった。その分多くの方に来場いただける機会を持ち、充実した事業内容にもなった。
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	イベントごとに作成したチラシにマークを入れて作成。イベント開始の挨拶の際、NPO支援基金の助成事業であることを来場者に伝えた。Facebookページの告知、募金箱の設置、のぼりの掲示など。
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>

5 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	今年度は毎回来場してくれるリピーターが多い印象だったが、もっとさまざまな方に来場していただけるよう、広報活動や新たな繋がりなどの紹介などから広げていきたい。
----------	--

6 活動状況について

★具体的な活動風景の写真などを貼付

7 収支決算

事業費	[D]	580,537	助成金	[E]	500,000
-----	-----	---------	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入	団体負担金	57,000	27,437		団体負担(自己資金)
	参加費・資料代等	45,000	53,100		イベント参加費 (9/17)300円×30名=9,000円(10/20)300円×39名=11,700円 (11/25)300円×69名=20,700円(2/23)300円×39名=11,700円
		その他の収入			
	計	[C] 102,000	[F] 80,537		自己資金等
	助成金	[B] 500,000	[E] 500,000		NPO活動資金助成金
	合計	[A] 602,000	[D] 580,537		

費目	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)			187,000		講師料・出演料(講師9名・出演者5組)
			10,000		イベントコーディネーター(1名×2回)
			25,000		パネリスト(@5,000円×5)
			10,000		司会(11月イベント1名)
小計	220,000		232,000		
②旅費・交通費			3,860		講師交通費(4名)
			30,500		機材運搬・駐車料金(音楽イベント)
				33,000	スタッフ交通費@1500×2名×11回(イベント5回・相談会4回・打合せ2回)
			30,000		音楽イベント出演者交通費(20人分)
小計	67,000	32,000	64,360	33,000	
③備品費・消耗品費				2,500	コピー代
				1,404	画材・文具
			3,300	4,950	横断幕作成費(イベント5回)
				14,798	コピー用紙・プリンタインク
小計	3,000	50,000	3,300	23,652	
④通信運搬費				738	書類郵送費(後援名義使用事業報告)
				3,090	チラシ発送費
小計		20,000		3,828	
⑤印刷製本費 (デザイン・原稿作成含む)			21,515		チラシ印刷・コピー代
			90,000		デザイン料(イベント15000円×5回・横断幕デザイン1回)
	小計	120,000		111,515	
⑥使用料・賃借料			84,600		会場費(イベント5回・相談会4回・打合せ2回)
			20,000		1月イベント音響機材レンタル料
小計	90,000		104,600		
⑦その他の経費				2,752	12月相談会茶菓子代
				580	12月相談会保険料
				950	1月イベント物販手数料
小計				4,282	
合計			515,775	64,762	
	[B] 500,000	[C] 102,000	[E] 500,000	[F] 80,537	助成金額との差額
	[A] 602,000		[D] 580,537		

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

助成金対象事業報告書(平成30年度)

団体名	特定非営利活動法人むさしの児童文化協会
事業名	おはなし語りと和の文化で地域をつなごう2018
事業(該当区分に○)	1. スタートアップ事業 <input type="radio"/> 2. <input checked="" type="radio"/> ステップアップ事業
事業概要	当会の根幹活動である①口演童話(腹話術、わらべうた等各種伝承文化含む)②南京玉簾③茶道、を中心に地域の諸団体と協働して、様々な場所で、こどもから高齢者まで老若男女が参加して、これらの文化を身近なものとして楽しむためのイベントやワークショップを実施した。併せて、活動普及とスキルアップのために講習会を開催した。
事業目的	1 老若男女が一堂に会して交流することを通して、地域の人々が繋がり、安全・安心で住み続けたい地域づくりを実現する。 2 東京オリンピック・パラリンピックを控え、日本文化も海外から注目されるなか、自国の文化を知り興味を持つ。 3 良質な児童文化を提供するための学びを深める。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) ・地域の保育園、幼稚園、小学校の幼児や児童とその親 ・地域の大人 (延べ1000人)	・地域の保育園、幼稚園、小学校、図書館利用者の幼児や児童とその親、大人(延べ2000人) ・地域の高齢者施設ややすらぎサロンの利用者(延べ170人) ・商店街や公園、区民活動センターなどを利用する地域の人々(多数)
	②実施内容 ・「夏休みおはなしの国で」親子で口演童話と和の文化体験。 ・地域各所に向いて口演童話や和の文化(茶席、玉簾、腹話術、伝承文化など)の実演や体験会。 ・講演会、講習会で学びの積み上げ(わらべうた、語り)	・会員「学びの学園」「西荻を楽しむ会」「松庵小あんこ応援団」はじめ商店街やすらぎサロン運営団体等々地域で活動している様々な団体と協働で事業を実施した。先方が「場と機会の提供」、当会が「実演の提供」であったが、当会活動目的の拡充・PR、会員のスキルアップ、他団体との関係づくり等、多方面で有益な経験が得られた。 ・当会独自のイベント実施と保育園、幼稚園、小学校、図書館、高齢者施設などでの定期的な口演童話・和の文化の実演 ・講演会(NPO活動)、講習会(わらべうた、語り、玉簾)の実施
	③実施場所 信愛書店、松庵小学校、高井戸小学校、阿佐ヶ谷地域区民センター、西荻地域区民センター、きずなサロン、デイケアセンター、ゆうゆう館、幼稚園、保育園、図書館	信愛書店、松庵/井荻/高井戸小学校、リーベスト松庵、榎の実幼稚園、西荻地域区民センター、阿佐ヶ谷地域区民センター、保育園・幼稚園、図書館、ゆうゆう館、角川公園、やすらぎサロン、商店街、高齢者施設
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) 当会会員で月1回の定例会に参加してボランティアとして参加活動できる会員(10人×6グループ=60人)が、各事業に参加する。	ボランティア活動ができる会員(10人×6グループ=60人)が交代で事業に取り組んだ。小学校や区民活動センター、角川公園での取り組みには、口演童話と茶席担当の2グループが参加して、一回のイベントに15~20人の会員が参加するなど、従事者の確保は万全であった。また、保育園や図書館など口演童話の定期訪問は2~3人のグループで体制が確保されていた。同様に商店街で定期開催を行った公園でのおはなし会も常に確実に従事者が確保されていた。
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) ・パンフレットを作成して、掲示するとともにイベント開催時や各種機会に配布する。 ・ロコミ ・ホームページ	当会会員の多くが高齢者であるため、フェイスブック等電子媒体での事業広報は不得手とするところであるが、今年度は会員への通知等からメールの活用を始めている。これは、情報伝達の迅速化や経費節減にも資するものである。今後は、ホームページの充実等対外的な電子媒体の活用にも取り組んでいきたい。ただ、フェイスtoフェイス、ロコミでの広報は会員の得意とするところであり、こちらの手法も引き続き重要視しており、活用してゆくものである。

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

	事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆうゆう館や区立公園、きずなサロンや小学校の父母会などの運営者からイベントやワークショップ開催を依頼されるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて実施した、新たな依頼団体との協働事業(学びの学園/角川公園)は双方が納得できるものであった。細かな反省点はあったものの年度内に2回目の事業が予定されている。昨年度事業実施した高井戸小学校ファミリー会とも先方からの依頼で年度内に協働事業の開催が予定されている。ほかの協働事業も回を重ねるにつれて、内容が充実してきていると感じている。相手方と協議できる関係を大切にしていきたい。
	<input checked="" type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった	
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域状況に詳しい既存の地域団体と連携し、情報の共有や対応の調整などを行うことで、地域に根差した活動が可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施前の協議を重ねることで、互いに情報共有や対応調整などができ、双方の資源を活用して充実した事業が実施できた。今後も良好な関係を持ち、活動を継続してゆきたい。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった	
	当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者に自身も口演童話や和の文化をやってみようという行動や、他者との繋がりを構築したり、地域活動に参加するなどの意欲を喚起する。 ・地域の中で認知され、地域住民と共に活動していくことができる。 ・会員のスキルアップを図り、活動内容が向上する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの中で参加者が体験できるメニューを設けるなど工夫をしている。きっかけの機会を提供することができた。 ・「協働事業ができる」という感触を得ることができた。継続してゆくことが重要だと感じる。 ・日常の活動を通して、また、講習会等の機会も積極的に確保して会員のスキルアップを図っていく。
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。		
<p>「夏休みおはなしの国で」「ゆうゆう館活動」は参加者の増加や毎回参加する人が見受けられるなど、地域に定着しつつあることを実感している。また、活動内容への問い合わせや、団体へ入会したいという申し出もある。</p> <p>さらに、地域の既存団体からもイベント等の実施依頼が相次ぎ、関係が広がっている。事業を実施するまでの協議の過程で、当該団体との相互理解が深まり連携が構築されている。</p>		
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input checked="" type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	<p>・実施対象者・内容・場所・回数・体制等、当初の計画に基づいて実施することができた。特にイベントについては集客が良かった。</p> <p>また、既存の地域団体と共に事業を実施することで様々な経験を得ることができた。当該団体との繋がりもでき、次回事業開催について協議が始まっている。相互の活動が拡充していくことを期待したい。</p> <p>・当団体への会員加入希望者もあり、「継続は力なり」と地道な活動の継続が大切だと実感している。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>・イベントや講演会・講習会など開催の折に、のぼり旗やカンパの箱を用意して支援基金への寄附を呼びかけるとともに、NPO活動に寄附金が活用されていることの周知を図ってきた。今年度はカンパ箱に23,000円の寄附をいただくことができた。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

5 課題と今後の活動について

今後課題の活動	<p>活動の継続と充実を図ることが重要である。これまでの経験や人脈を資産として、引き続き次の事項を課題とする</p> <p>①自己資金を獲得する ②会員のスキルアップを図る ③地域に根差して事業展開する ④会員が楽しみながら活動を継続する</p>
---------	--

6 活動状況について



7 収支決算

事業費	[D]	343,811	助成金	[E]	300,000
-----	-----	---------	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入	団体負担金	30,000	41		団体会計から
	参加費・資料代等	15,000	19,000		地域団体依頼事業参加 14回 参加308人(参加費子ども・大人50円~300円)
		120,000	24,770		講習会 4回 参加50人
		50,000			
	その他の収入				
	計	[C] 215,000	[F] 43,811		自己資金等
助成金	[B] 300,000	[E] 300,000		NPO活動資金助成金	
合計	[A] 515,000	[D] 343,811			

費目	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)			30,000		講演会(2回/2人)、講習会(1回/1人)講師
	小計	50,000	50,000	30,000	
②旅費・交通費					
	小計	5,000	5,000		
③備品費・消耗品費			195,923		ワークショップ等実施材料費(紙類、文房具類、食料費等) 和三盆
	小計	143,000	195,923	1,450	
④通信運搬費			9,110	3,000	イベント資材運搬費 イベント案内等郵送料
	小計	36,000	12,111	3,000	
⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)			46,167	160	団体案内パンフレット、イベントチラシ印刷
	小計	6,000	46,167	160	
⑥使用料・賃借料			55,000		イベント、講演会、講習会会場費 22回
	小計	60,000	55,000		
⑦その他の経費					
	小計		80,000		
合計			339,201	4,610	助成金額との差額
	[B] 300,000	[C] 215,000	[E] 300,000	[F] 43,811	
	[A] 515,000	[D] 343,811			

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。